

令和2年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	1 自主的精神に充ち、謙虚に学んで、豊かな教養を身につけた人間の育成 2 人の価値を尊び、敬愛の念をもち、協調性に富む人間の育成 3 常に全体の一員であるという自覚をもち、責任と恩義を重んずる人間の育成 4 心身の健全なる発達を図り、公正なる判断力を養い、己の道に徹し、進んで実行する人間の育成
(2) 現状と課題	1 本校は、上級学校進学率が90パーセントを超える県内有数の進学校であり、地域社会を牽引するリーダーの育成や医師不足の解消など、青森県の抱える課題を克服するため、難関大学や医学部への進学者を増やすことが期待されている。また、単位制高校として、生徒のニーズに応じた多様な選択科目を設定した教育課程の編成と習熟度別授業やチームティーチングなど、きめ細やかな学習指導の充実が求められている。 2 悩み事や困り事を抱える生徒に対して、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、具体的に組織的支援をはかる必要がある。
(3) 重点目標	1 自ら学ぶ意欲を持った生徒を育成するために、基本的学習・生活習慣の確立を徹底するとともに、教え合い・学び合いを進める 2 生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導を行い、生徒一人ひとりが輝く場面や場所を創る 3 いじめのない安心安全な教育環境づくりと人間関係づくりを促進する
(4) 結果の公表	学校ホームページで公開する。

学校整理番号	14
学 校 名	青森県立八戸北高等学校
全日制の課程	○本校・ 校舎 ・ 分校

自己評価実施日	令和 3年 2月 5日(金)
学校関係者評価実施日	新型コロナウイルス感染症の拡大により実施せず

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員 4名、保護者代表 5名 計 9名

自 己 評 価					学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	自ら学ぶ意欲を持った生徒の育成、基本的学習・生活習慣の確立を徹底、教え合い・学び合いの推進	・生徒のニーズに応じた多様な選択科目を設定した教育課程の編成をはかる。 ・「主体的・対話的で深い学び」による授業改善を進める。 ・夏の暑さ対策としての学習環境整備 ・学習課題を設定し、グループ学習やブレゼンテーション活動で、教え合い・学び合いを進める。	・探究学習を行う複数の学校設定科目を設置した。 ・各教科において、課題設定学習や対話的グループ学習が取り入れられ、生徒は積極的に取り組んだ。 ・夏季は始業前や放課後、多くの生徒がエアコンの設置された学習センターや演習室で自学している。 また、特別教室に壁掛け扇風機を設置した。 ・数学で習熟度別授業を、英語や理科でチームティーチングを実施した。	B	・学習指導では、生徒の感想や要望を把握し、授業改善に結びつけて欲しい。 ・課題設定学習は、質と量のバランスを憂慮していたが、自ら学ぶ意欲に根ざす学習指導は評価できる。 ・対話的グループ学習は、より深い学びをめざすため、生徒が主体的に問題に取り組めるような課題設定が求められると思う。	・単位制高校として、生徒のニーズに応じた選択科目を設定した教育課程を編成する。申請中のSSH指定が得られた際には、新指導要領改訂を見据えた教育課程の大幅な改編に取り組む。 ・教員間の授業参観を通して授業改善を図り、全教員が課題学習や対話的学習に取り組む。 ・習熟度別授業やチームティーチングは、実施する教科科目を増やす。
2	生徒一人ひとりに応じた細やかな指導、生徒一人ひとりが輝く場面・場所を創る	・悩み事を抱える生徒は、ホームルーム担任や養護教諭だけでなく、スクールカウンセラーやメンタルコーチを活用した。 ・困り事を抱える生徒に対し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成した。	・ホームルーム担任と養護教諭が悩み事を抱える生徒の状況を共有した。その上でスクールカウンセラーと連携して対応し、また、メンタルコーチも個別面談を行い、生徒の気持ちに寄り添った指導を行った。 ・困り事のある生徒は、生徒や保護者から承諾を取り、個別の教育支援計画や個別の指導計画に基づく共通認識を教員間ではかった。	A	・教員が生徒に積極的に声がけすることで、信頼関係に根付いた教育が展開される。 ・学校全体の学習に前向きな雰囲気があり、教員と生徒の距離感が良好である。 ・社会に出た際、困難な問題に向き合い、解決できる力を身に付けさせて欲しい。 ・SCやメンタルコーチと協力し、生徒の悩みに対応してもらっている。 ・個別の指導計画は生徒一人ひとりに応じた細やかな指導である。	・スクールカウンセラーとの面談は生徒に限らず、場合によっては保護者にもすすめている。メンタルコーチの個人面談は継続する。 ・悩み事や困り事のある生徒は、個別の指導計画に基づき、組織的に対応する支援体制を整備する。
3	いじめのない教育環境づくりと人間関係づくりの促進	・年2回いじめアンケートを実施。 ・SNSへの不用意な書き込みに対する注意喚起と外部講師による講演会の実施。 ・いじめの対象になりやすい、困り事のある(発達障害が疑われる)生徒への理解をはかる。	・いじめアンケートで訴えがあれば、ホームルーム担任を中心に年次担当者が事情を確認し、いじめ防止・教育相談委員会で検討し、早期解決にあたった。 ・SNSへの不用意な書き込みに対する注意喚起のため「こころの教育相談センター」から講師を招いて講演会を実施した。 ・年次と関係分掌主任で行われる関係主任会議・職員会議において生徒の情報共有をはかった。	A	・SNSによるいじめの問題は、様々な機会を通して、啓発や指導を続けて欲しい。 ・いじめ問題は学校だけでなく、PTAも同じ立場で向き合うことが必要だ。 ・講演会などでいじめに対する「自制心」を育てている。家庭でも話し合う機会を作りたい。	・いじめ問題は、SNSへの誹謗・中傷などの書き込みが多くなっている。SNSなどへの不用意な書き込みを行わないよう年次集会などで徹底的な注意喚起を行う。 ・悩み事や困り事のある生徒の情報共有は継続し、必要に応じてスクールカウンセラーとの面談や、心療内科など医療機関の受診をすすめる。

(11) 総括	学校生活全般において、自ら学ぶ意欲のある生徒の育成を重点として教育活動に取り組んだ。特別支援を必要とする生徒が増えている現状に鑑み、支援計画を具体化し、組織的に支援する体制を整備する。また、大学入学共通テスト対策に取り組み、生徒の進路実現をはかる。そのため単位制高校として、令和4年度から年次進行の学習指導要領実施へ向け、本校の将来の在り方を見据え、生徒のニーズに応じた教育課程の編成する。さらに生徒が充実した学びができるようICT機器やエアコンの設置など学習環境の整備をはかる。
---------	--